

關西大學 中國文學會紀要 第19號 (平成10年3月) 抜刷

鄺其照の『華英字典集成』をめぐって

内 田 慶 市

鄺其照の『華英字典集成』をめぐって

内 田 慶 市

1. はじめに

近代中国語の訳語に関して、その日本語からの逆輸入の現象について沈1994に次のような記述がある。

訳語と英語原語の対応が、両言語において、きれいに一致していることは、一方から他方への影響の結果と考えるほうが自然である。この事象に関しては論理的に二つの可能性が考えられよう。

(1) ロブシャイドの後、中国人が自らその訳語に対し、ある種の調整を行い、それを定着させ、今日に至った。その影響が日本にも及ぶ。

(2) 日本人が『華英字典』又はその他の洋学書から訳語を借用したのち、それを新しい訳語に改めた。改造された訳語が再び中国へ逆流入し、日本語借用語の一部になった。

(1)は今までの研究によって否定されている。我々は19世紀の英華辞書において、このような訳語調整の痕跡を見付けることができなかったからである。残る可能性は、これらの訳語が日本において一足早く意味変化のプロセスを終え、現代語彙として成立したのち、中国に逆流入し、ロブシャイドの訳語に取って代わったと考えるのみである。

(193 p)

沈1994のこの記述は大筋において妥当なものであろう。特に(1)の「その

影響が日本に及ぶ」可能性はこれまでの研究で否定されるものである。ただ、1点、問題にしたいのは「中国人が自らその訳語に対し、ある種の調整を行い、それを定着させ、今日に至った」ことが全くなかったかどうかということである。「訳語調整」の含義が「これまでの古い訳語に代えて、新しい訳語を作る」ということであるならば、確かにその通りかも知れないが、「これまでの古い訳語に代えて、日本で改造された訳語などを取り入れてそれらを定着させていった」ということであるならば、そのような意味での「訳語調整」は中国人は自ら行ったと言えるのである。そして、それらは中国人の手になる英華(漢)字典の系譜、すなわち一連の商務印書館系列の英華(漢)字典(内田1995を参照)における語彙(訳語)の変遷として具体的に示されていると考える。また、その後の中国語の中に定着こそしなかったが、厳復の行った作業はまさに「訳語調整」そのものであり、自らの訳語を創造しようという意識がそこにはあったと見るべきである。

近代中国における「西学東漸」という大きな流れの中で、中国人は新しい文化、事物の流入に伴い、それに対応する言語(特に語彙)の創造に並々ならぬ力を注いできた。英華字典等に見られる語彙変遷は、まさに中国人が自ら「かの国」の言語と真正面から向き合って、「この国」の言語を確立しようとした営みの現れであり、そこにおける「生みの苦しみ」の痕跡であると言える。

2. 鄒其照の『華英字典集成』

ところで、商務印書館の最初の英華字典である鄒其照の『商務書館華英字典』(1899)について、内田1995では次のように述べておいた。

注(1993)によれば「南方で中国人(鄒其照)の手になる最初の英華字典が1873-1875に香港中華印務総局から出版された」とあり、また後述の『商務書館華英音韻字典集成』(1902)の厳復の序に「尚憶三十年

以往、不佞初學英文時、堂館所頒、獨有廣州一種、寥寥數百千言、而義不備具」とあるのがそれを指すと思われるが、本書は汪（1993）ではその「修訂増補版」であり、「約40,000字を収める」とする。

執筆時点では、商務の「華英字典」の元になった『華英字典集成』を見ることはできなかったのであるが、その後、いくつかの版本を見る機会を得た。ここでは、「華英字典集成」とその周辺について気づいたことを述べてみたい。

2-1. 三種の版本

今回、目にするのが出来たのは以下の三種の版本である。

A：光緒元年重鐫 粵東鄺其照容階選著 「字典集成」

丁日昌題

AN ENGLISH AND CHINESE

DICTIONARY

COMPILED FROM

DIFFERENT AUTHORS, AND ENLARGED BY THE ADDITION

OF THE LAST FOUR PARTS,

BY KWONG KI CHIU

HONGKONG THE CHINESE PRINTING AND PUBLISHING COMPANY

1875

光緒元年端陽節鄺其照並識 (2 p), 本文 (344 p)

B：光緒十三年重鐫 「華英字典集成」許應鑠題

AN ENGLISH and CHINESE
DICTIONARY
COMPILED FROM
THE LATEST AND BEST AUTHORITIES, AND CONTAIN
ING ALL WORDS IN COMMON USE WITH
MANY EXAMPLES OF THEIR USE

New edition, thoroughly, and greatly enlarged and improved by the addition of a classified list of miscellaneous terms, a number of miscellaneous sentences, some forms of letters, notes, and petitions, a table of distances, the tariff of imports and exports of China, the latest improvement on the commercial treaty between China & foreign countries, & a historical sketch of the Chinese dynasties, in which the dates are harmonized with the Christian chronology

BY KWONG KI CHIU

Shanghai; WAH CHENG, 316 Honan Road, Kelly & Walsh.
London; Trubner & Co. 57, and 59, Ludgate Hill,
HongKong; Kelly & Walsh.
San Francisco; Wing Fung, 746, Sacrament Street
1887

PREFACE (1882 2 p), 許應鑄題詞 (光緒丙戌=1886 3 p)
胡福英の序 (光緒丁亥=1887 4 p), 本文 (454 p)

C：題字等はBと同じ。ただし、編者名に漢字名が、発売元に以下の場所が加わる。

& Lee Chong Lung Co. Wing Lok Street, Hongkong
(利昌隆發售 香港上環永樂街)

また、著者の他の著作の広告も掲載されており、印刷所が明記される。

PRINTED BY The Chinese Printing and Publishing Company,
Limited.

(TSUN WAN YAT PO.) No. 51, Gough Street, HONGKONG.
(循環日報承印) 1902

PREFACE (1882 2 p), 胡の序文などはBに全く同じ。

本文のページ数もBと同じ。

2-2. 三種版本の関係

『華英字典集成』の初版は未見であるが、上記三種の序文、特に1887年版と1902年版の序文から、以下のようなことがわかってくる。

(1) 初版は、1868年に出版され、1875年版よりも語彙数は少なく、約8,000語であった。(前稿で参考にした汪1993では1873-1875年としているが、この根拠はわからない。汪1993では、他にもいくつか問題点があり、恐らく現物等を見ていないと推測される)

また、いわゆる「完本」としては1902年版しか私も見ていないのであるが、序文から判断すると、初版から字典本文以外に、1902年版に見られるような品目名や会話集といった「付録」も付けられていたと考えられる。

(2) 第2版が、Aの1875年版である。初版に4,000語が加わり、合計約12,000語が収められる。また、商業通信文や方言(広東音)による音注な

どが付録としてつけ加えられる。

(3) その後、1875年から8年間、アメリカの Connecticut 州 Hartford (ニューヨークの北) の Chinese Educational Commision のメンバーに加えられて、その地に居住する機会を得、そこでの英語学習の成果を反映したのが、1882年版つまり第3版ということになる。Bの1887年版では、序文の日付は1882年であり、1882年の重版(「重鐫」)と考えてよい。(注1993によれば、1875年の渡米は中国第一次国費留学生第4班のリーダー、通訳として随行したとある)

(4) Cの1902年版は、Bを更に改訂増補した第4版である。タイトルには1887年版、すなわち1882年第3版と全く同じく「光緒十三年重鐫」とあり、英文序の刊記も1882であるが、序文の最後に「1902年に新しい語を加え、また誤りを正した」という記載が4行追加されている。本文のページ数も第3版と全く同じであり、収録語彙もほとんど同じかと見間違いがちであるが、よく調べてみると実はかなりの改訂が施されていることがわかる。興味深いことは、この1902年第4版の3年前にはすでに商務からも鄺其照の『商務書館華英字典』が出版されていることである。これも未見であり何とも言えないところではあるが、注1993では、語彙数約40,000とあるから、この第4版とはおそらく趣を異にするものである。またその改訂増補も鄺其照自らが行ったのではなく、顔惠慶等の手によるものである。

3. 『華英字典集成』の周辺

——その語彙と他の字典との影響関係について

ところで、注1993では、次のように言う。

鄺其照所編是部簡明詞典、它的母本不詳

実は、鄺其照が元にした字典については、日本では夙に明らかにされて

いることである。たとえば、森岡健二1991に次のようにある。

この辞書 (=メドハースト——筆者) は、後に述べるロブシャイドに次ぐ大辞書で、日本に与えた影響も大きいが、中国において本書その他によって編集された鄭其照の字典に訓訳を施したものが、明治14 (1881) 年、永峰秀樹によって、『華英字典』として出版されている。(56 p)

この永峰秀樹訓訳『華英字典』(竹雲書屋發兌) は、香港で出版された鄭其照の字典ではなくて、上海點石齋による石印本を翻刻和譯したものであるが、その點石齋の序文に以下のようにある。

本齋初見英國墨黑士先生三十五年前所著華英字典一冊・而愛之繼思查閱之書必應仿袖珍式樣方便舟車攜帶・爰擬照成縮本以公諸世・繼而又見粵東鄭容階先生已為重印・內并稍添他人字典・板較明晰・因即取付手民用照相石印之法縮成一小本・而其所載字典以外之語言文字雜著等・則概從刪汰・蓋以此為鄭君所自著・本齋不欲掠人之美也・印既竟為數語於簡短

時光緒己卯猶清和月 點石齋主人謹識

この點石齋の序文の刊記は光緒己卯 (1879) とあるから、上で述べた1875年第2版の可能性が大である。未だ詳しくは見えてはいないが、若干の訳語の配列の違いはあるが¹⁾、収録語彙はほぼ同じと言える。

さて、Medhurst (『English and Chinese Dictionary』1847-48) との関係であるが、今、Medhurst の1ページ目のAの項の説明を、鄭其照のそれと対照してみれば、確かに一目瞭然である (下線部のみ異なる)。

<Medhurst>

A, the letter a; the broad and open sound of this letter is expressed by 亞 a. or 阿 a.

A, considered as the article of unity, is in Chinese expressed by 一 yih, one, between which and the noun, a character is frequently inserted, by which the Chinese reckon the thing referred to, and therefore it is called a numeral; as

<華英字典1875版>

A, the letter a. The broad and open sound of this letter is expressed by 亞, or 阿.

A, considered as the article of unity, is in Chinese expressed by 一, between which and the noun, a character is frequently inserted, by which the Chinese reckon the thing referred to, and therefore it is called a numeral; as

ただ、點石齋の序文にも言うように、他の字典も参考にしたとあるから、全てメドハーストを受け継ぐものではないし、また「他人字典」が如何なる字典を指すかが問題となってくる。この時代にあつて、考えられるものは、一つはロブシャイド(1866-69)であり、もう一つはウィリアムス(1844)ということになる。(他にはモリソン、ステントも可能性がある)そもそも、これまでメドハーストの流れとは言われてきているが、具体的に例を示してその影響関係を論じたものを私はまだ見てはいない。

今回試みに具体的な語彙についてその点を考えてみたい。

まず、[表1]である(K2は廓の第2版、K3は第3版、K4は第4版を示す)。

2～4までは、例の羅森の『日本日記』(1854)に現れるペリーが幕府に

〔表1〕

	原語	Lobsheid	Medhurst	K 2	K 3	K 4
1	train	X	X	X	火車	火車
2	lifeboat	救命艇	X	救人艇	救人艇, 救生船	救人艇, 救生船
3	telegraph	電報	X	電報	電報	電報
4	camera	照物箱	X	X	X	X
5	image	映像, 映相	偶像	偶像	偶像	偶像
6	essence	X	本質	本質	本質	本質
7	propagate	宣傳	傳教	生増, 舉拔	生増, 舉拔	生増, 舉拔
8	principle	原理, 道理	道理	道理, 術道, 心道	道理, 原本	道理, 原本
9	organ	大風琴	風琴	風琴	風琴	風琴
10	Deity	上帝, 天主	上帝	上帝, 天主	上帝, 天主	上帝, 天主
11	pino-forte	大洋琴	洋琴	洋琴	大洋琴	大洋琴
12	chemistry	X	X	練用法, 練藥的	練藥的, 化学	練藥的, 化学
13	beer	啤酒, 大麥酒, 麥酒, 苦酒	大麥酒, 苦酒, 啤酒	大麥酒, 啤酒	大麥酒, 啤酒	大麥酒, 啤酒
14	butter	乳油, 爛油, 牛乳油, 馬思哥	牛乳油, 牛爛油, 酪, 酥	牛乳油	牛乳油	牛乳油
15	bread	麵包, 麵頭, 饅頭	麵頭, 饅頭, 麵包	麵頭, 麵包	麵頭, 麵包	麵頭, 麵包
16	bicycie	X	X	X	X	腳車
17	railroad	火車輪路	金路, 鐵路	鐵路, 火車路	鐵路, 火車路	鐵路, 火車路
18	telescope	千里鏡	千里鏡	千里鏡	千里鏡	千里鏡
19	photograph	影相	X	影的相, 照的相	影的相, 小照, 照的	影的相, 小照, 照的相
20	Encyclopedia	智環總録, 百智彙記, 三才圖會	廣事彙記	廣事彙記	廣事彙記	廣事彙記
21	fancy	幻想, 空想	X	意思, 意愛, 中意	空想	空想

(Xは該当する語彙がないことを表す。以下同じ)

献上した品物の名称である。5～8はロブシャイドとメドハーストの訳語の違いが割と明らかなものである。9～21は極めて恣意的に抽出した語彙である。

これらを見ると確かに Medhurst の影響を受けているともいえるし、必ずしもそうではないとも言えそうである。総じてメドハーストを継承してはいるが、2. 3. 10. 19. 21の例のようにロブシャイドの訳語と共通するものも見られる。また「化学」のような語を第3版以降には積極的に取り入れていることがわかる。「化学」については日本に伝わったのは『六合叢談』(1857-1858)によるが、実際には中国では『格物探原』(Williamson 1856)が最初であり、欧米人の手になる英華辞典類では Lobsheid の『English and Chinese Dictionary』(1874)、『字語彙解 (An Anglo-Chinese Vocabulary of the Ningpo Dialect)』(Rev. W. Morrison 1876)に見えるものである。鄭がこれら字典を見ていた可能性は十分考えられる(Lobsheid の chemist に「精化学之人」とあり、一方、鄭其照の1882にも同じく「精化学者」とある。Lob では chemistry は「化学方法」とする)が、いずれにせよ恐らくは中国人の手になる英華字典として「化学」を収めた最初のものと言うことができる。なお、19の bicycle は鄭では「脚車」であるが、第3版までや、他の先行する字典には現れてこないものであり、自転車はかなり新しい事物ということがわかる。

次に [表2] であるが、これは沈1994の言うところの「英華字典と日本での訳語が同じもの」による対照表である。

これらの語彙は、その当時すでに中国語の中にある程度定着したと考えられるものであり、各字典において、ほぼ共通した訳語になっている。ただし、1. 5. 9. 11. 13のように、メドハーストよりもむしろロブシャイドを継承していると見るのが妥当のようにも思われる。また、ここでも、第2版と、第3版、第4版とのはっきりとした違いが見取れる。(2. 9. 11. 13)

[表3] は、英華字典類と日本での訳語が同形でありながら、その対応

〔表2〕（沈1994による英華事典と日本での訳語が同じものによる語彙対象表）

	原語	Lobsheid	Medhurst	K2	K3	K4
1	bank	銀行	銀號, 錢舖	銀行	銀行	銀行
2	coffee	咖啡	咖啡	咖啡	咖啡	咖啡
3	consul-general	總領事館	領事館	領事館	總領事	總領事
4	diamond	金剛石	金剛石, 金剛鑽, 鑽石	金剛石, 鑽石	金剛石, 鑽石	金剛石, 鑽石
5	educate	教養	數學, 教道	教養	教養	教養
6	insurance	保險	X	保險	保險	保險
7	law	法律	律例, 律法, 法度, 制法, 法令, 準則, 法律, 制度, 章程, 格例	律例, 國法, 法度	例, 律例, 國法, 理, 章程	例, 律例, 國法, 理, 章程
8	level	水準	平, 平坦, 水平, 水準	平, 削, 平坦	平, 平坦, 齊, 均	平, 平坦, 齊, 均
9	literature	文學	文字, 文章	文字, 文章	文, 文字, 文學	文, 文字, 文學
10	matter	物質	物, 質	物, 質, 事	物, 質, 事	物, 質, 事
11	medical science	醫學	醫學	X	醫學	醫學
12	spirit	精神	精神	精神	精神	精神
13	the Tropical	熱帶	北帶, 北道, 夏至道, 南帶, 南道, 冬至道	X	熱帶	熱帶
14	unit	單位	一, 單一, 單位	單一	一, 單位, 獨一	一, 單位, 獨一

〔表3〕（沈1994による英華字典と日本語訳が同じであるが、原語との対応が異なるもの）

	原語	定訳	Lobsheid	Medhurst	Kuang
1	agree		投機	投機	投機
2	speculation	投機		思想、想謀、 默想	謀利、暗想
3	argue, reason		理論	辯駁、辯論、 理論、評論	辯駁、辯論、 評論
4	theory	理論		意思	法、法式、法 子、理、意思
5	art profession		工業	工業	X
6	industry	工業		X	百工、百藝
7	attraction		索引	索引之力	索引之力
8	index	索引		目錄、条件、 名目	目錄、名目
9	barricade		保障	保障	保障
10	guarantee	保障		保障	保領、包
11	brighten		發明	磨光、發光、 發明	磨光、擦光
12	invention	發明		制作、製造、 捏造、始作、	始造、新造之 才
13	command, inspector-general		總理	總理	督理、總兵、 統樞、監督
14	prime minister	總理		拜相、丞相、 宰相	首相、冢相
15	gentlemen recommenders of person		選舉	進、舉薦、囑 付	薦、舉薦、保 舉、付託
16	election	選舉		選擇之事	選擇、(選舉、 公舉)
17	intention		機關	意思、主意、 心意、意見	意、意思、心 志、主意
18	organ	機關		風琴、聞官、 筭官	官、風琴
19	produce		生產	生產	出產、出、生

	原語	定訳	Lobsheld	Medhurst	Kuang
20	production	生産		土産、物産	土産、出産之物
21	protects one's life		衛生	衛生	X
22	sanitation	衛生		平安、無恙	保安的、保護身体的
23	statemanship		經濟	X	治國之才、經濟
24	economy	經濟		節儉、節用、 儉約、治家之道	治家之道、節儉、節用
25	teacher		教授	教學者、師、 教師、師傅、 學師、先生	教學者、老師、 先生
26	professor	教授		學正、學師	書院大教師
27	think		思想	思想、意想、 用意	思、想、度、 以爲
28	thought	思想		念頭、想頭、 心頭、想思、 意思、思念、 思慮	心思、想像、 意思、心緒
29	transact		幹事	辦事、經事、 幹事、通事	辦、理、辦理
30	manager	幹事		理事之人、司 町、幹事	司事人、大班、 辦理者
31	professor		學士	學正、學師	書院大教師
32	bachelor	學師		未娶之男、秀 才、生員、文 生、士	秀才、生員、 年高未娶者
33	degree, grade		階級	品、品級、階 級、等級	品級、等、層、 階
34	class	階級		部類、群類、 種類、品	群、類、班、 族、種類
35	accredit		信託	見信、可託	信託
36	trust	信託		任、忠信、託 付之事	信、忠信、倚 靠、任、職任
37	consequence		關係	關係	關係
38	relation	關係		說、傳、講、 相關、係屬	說、講、屬、 有關涉

する原語が異なるものである。鄭の訳語は明らかに日本語系統ではなくて英華字典の系統であると認められる。

[表4] は、19c の英華字典には現れない、完全なる日本語借用語と確認されている語彙であるが、ここではメドハーストの影響が強く認められると同時に日本語借用語は一切取り入れられていないことがわかる。

[表5] は、遠藤智夫1996で、堀達之助『英和対訳袖珍辞書』(1862)とメドハーストの影響関係を明らかにするために選ばれた鑑定語によつ

(表4) (沈1994のVII = 19c 英華字典に現れない日本語借用語による訳語対照表)

	定訳	原語	Lobsheid	Medhurst	K 4
1	科學	science	學	智, 到治, 學文, 學	學, 智, 理
2	革命	revolution	變亂, 叛逆	國變	變亂, 叛, 叛逆
3	具體	concrete	包體	凝結成塊	凝結的, 有形體的
4	經驗	experience	經, 受	練熟	歷練, 經歷, 識見
5	元素	element	元質, 本質	元質, 元行	根本, 元氣, 本質, 行
6	憲法	constitution	國法	國法, 律例, 氣質, 元氣	律例, 氣質, 元氣
7	時間	time	時候	時節, 光陰, 時日, 時, 曆日	時, 時候, 光陰
8	市場	market	市	市, 街市, 墟, 市頭, 墟場	市, 街市, 墟場, 行情
9	社會	society	會, 結社	會, 結社	會, 結社, 簽證之會
10	抽象	abstract	禪, 虛心	禪, 抽去	要略, 撮要, 約言, 抽去
11	哲學	philosophy	理學	性理, 性學, 格物窮理之學	情理, 格物理之學, 情理之學, 格物總論
12	電話	telephone	X	X	X
13	手續	procedures	法	行爲, 行動	行爲, 前行, 辦法

〔表5〕 (遠藤智夫1996の語彙による訳語対照表)

	原語	Morison	Williams	Medhurst	K 2	K 3	K 4
1	acumen	聰明, 才智	X	銳利, 伶俐	利鋒, 銳利, 利, 尖	利鋒, 銳利, 利, 尖	尖, 銳利, 智慧, 聰明
2	adoration	拜神, 欽崇	崇拜	崇拜	崇拜	崇拜	崇拜
3	advantage	利, 益	利益	利益, 便易	利益	利益	利益
4	agreement	約, 相和	合約, 和合	和睦, 和合, 相和	和氣, 合同, 契約, 相合, 合意	和氣, 合同, 契約, 相合, 合意	和氣, 合同, 契約, 相合, 合意
5	air	氣, 地氣	地氣	氣, 風格, 貌, 形狀	天氣, 氣, 空中	天氣, 氣, 空中, 風	氣, 天氣, 風, 空中
6	ambiguous (ambiguity)	含混入奏	兩端	可疑之事, 一字兩意	兩意, 可疑之事	兩意, 可疑之事	兩意, 可疑之事
7	ambition	好大喜功	好高	功名, 不臣之心	好高	好高, 好名	不甘爲人下, 志氣高
8	anticipation	予備	揣度	予備	預先料度, 預料	預先料度, 預料	預先料度, 預料
9	aphorism	X	X	教戒之語	教戒之語, 格言, 訓典	教戒之語, 格言, 訓典	教戒之語, 格言, 典訓
10	appearance	外面之様子	形貌	容貌, 形勢	形狀, 容貌, 模樣	形狀, 容貌, 模樣	形狀, 容貌, 模樣
11	aristocracy	X	諸候	諸候之弄權	諸侯用權, 爵位	有爵者, 統轄, 爵位	有爵者, 統轄, 爵位
12	art	藝業	藝	藝業, 技術	手藝, 技藝, 技術	手藝, 技藝, 技術	手藝, 技藝, 技術
13	aspect	容貌	形貌	容貌, 顔色	容貌, 光景	容貌, 形勢	容貌, 形勢
14	association	X, 相交	X, 相交	交際, 相交, 會合	會, 黨羽, 交際	會, 黨羽, 交際, 相投	會, 黨羽, 交際, 相投
15	atom	塵, 埃	塵埃	極微之物, 纖析無可分	極微之物, 至小的物	極微之物, 至小的物	極微之物, 至小的物
16	authority	權柄	權能	權柄, 有權	權勢, 權柄	權柄	權柄
17	circum- stance		原由, 來歷	緣事情, 情形, 光景, 形勢	事情, 案情, 情形, 形勢, 境遇	事情, 案情, 情形, 形勢, 境遇	事情, 案情, 情形, 形勢, 境遇
18	constitution		元氣	氣質, 元氣, 資質, 性體, 法政, 政事, 國法	氣質, 律例, 元氣	氣質, 律例, 元氣	氣質, 律例, 元氣
19	hermit		隱者	隱居者, 隱修者	隱者	隱者, 逸士	隱者, 逸士

て、Morison, Williams との関係を考えてみた対照表である。7. 19は Williams と一致する。

さて、以上のように鄭其照の『華英字典集成』に収められた訳語がそれまでの英華字典とどのような影響関係にあるかについて、ごく限られた範囲で検討してきたのであるが、確かに第2版ではメドハーストの影響が大きいと言えそうである。ただし、恐らくはモリソン、ウィリアムス、ロブシャイドといった先行する成果もその中に取り込んでいる可能性は否定できないものである。特に、第3版以降は、メドハーストを離れているように思われる。ただし、1902年版においても、未だ、日本語の影響は見受けられない。そういうことからすれば、この字典は非日本語借用語のフィルターとしても使うことも可能となってくる。また、一方で、彼の字典を元にして改訂増補がなされた『商務書館華英字典』との関係も今後検討していく必要がある。先にも述べたが、この改訂増補は顔惠慶の手によるものであるが、顔惠慶はその後、1905年から1908年の間に『英華大辭典』を編纂している。そして、そこには実はかなりの日本語借用語が含まれているのである。とすれば、鄭の字典の改訂に際しても日本語借用語が取り入れられた可能性も考えられる。もし、その鄭の系統の『商務書館華英字典』には、日本語借用語の影響が全く見受けられないか、あるいは極めて少ないということであれば、顔惠慶の『英華大辭典』との比較の中から、1899年から1908年の約10年間に中国語に定着した日本語借用語をある程度特定できるという可能性も出てくる。いずれも、今後の課題である。

[附記]

本稿は第12回近世語研究会(1997. 5. 25. 筑波大学学校教育部)での口頭発表を元に加筆修正したものである。

<注>

- 1) 配列の違い等はたとえば次のようなものであり、決定的な違いとは見れな

い。

(1875版)

(水峰)

Abacus	算盤, 盤數	算盤, 數盤
Abase, to	推下, 壓服, 降級	推下, 降級, 壓服
Abashed	羞愧	羞耻
Abject	下賤的, 無用的, 下流的	無用的, 下賤的, 下流的
Abject	小人, 下流之人	下流之人, 小人

〈参考文献〉

- 森岡健二編著 1991『改訂近代語の成立 語彙編』明治書院
- 汪家燊 1993『清末至解放初的英漢詞典』(『出版史研究』第1号)中国書籍出版社
- 沈國威 1994『近代日中語彙交流史』笠間書房
- 内田慶市 1995『商務印書館『英漢字典』の系譜』(『関西大学文学論集』第44卷1-4号)
- 遠藤智夫 1996『『英和対訳袖珍辞書』とメドハースト『英漢字典!』(『英学史研究』第29号)

前 号 目 次

西村天囚と劉坤一 —— 清末の教育改革をめぐって —— 湯顯祖戯曲の評価とその変遷 —— 万曆年間後期から王朝交替期に至るまで —— 忘れられた革新 —— 張暖忻の映画論 —— 衆報 清国英語事始	陶 徳 民 (1) 和 泉 ひとみ (41) 好 並 品 (31) 内 田 慶 市 (7)
---	---